

【はじめに】

平成27年飛騨市観光客入込数の推計にあたり、一部観光地点における推計方法の見直しを行った。

主なものとして、「古川町古い町並み」への入込客数について、公共無料駐車場の駐車台数等を基に推計しているが、従来の算定式を精査した結果、駐車可能台数に比して不自然と思しき過大な数値となっていたことから、論理的に説明できる算定方法に是正したことなどが挙げられる。

既に公表されている平成26年数値(1,087,552人)は変更できないため、今回発表する平成27年数値の対前年比については、昨年公表済数値及び是正後数値の両方をお示しさせていただくこととする。

年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	対前年比
【古川町】	469,104人	595,124人	623,519人	(532,969) 616,887人	524,733人	(98.45) 85.06%
【河合町】	65,380人	59,256人	69,799人	(48,688) 65,605人	38,537人	(79.15) 58.74%
【宮川町】	21,187人	23,167人	15,151人	14,649人	14,426人	98.48%
【神岡町】	351,637人	375,473人	374,699人	(403,591) 390,441人	393,112人	(97.40) 100.68%
入込客数合計	907,308人	1,053,020人	1,083,168人	(999,897) 1,087,552人	970,808人	(97.09) 89.27%
うち宿泊客数合計	90,859人	102,269人	102,751人	103,885人	106,816人	102.82%
うち外国人 宿泊客数	348人	555人	2,285人	3,647人	5,489人	150.51%

(岐阜県観光レクリエーション動態調査基準)

※平成26年及び対前年比欄の()内は、是正後数値

【観光動向】

入込客総数は970,808人で、対前年(是正後)比2.9%、2.9万人の減少となった。

飛騨広域での取り組みも含め、各種媒体を通じた情報発信強化、大都市圏での誘客PR活動や海外セールスの継続実施などが奏効して入込が増加した地点等がある一方で、天候等に起因して大きく減少した地点等もあった。

「飛騨古川古い町並み」では、乗用車での来訪が増え、12.6%、2.6万人の増加となり、JRで訪れて散策する外国人の姿も目立った。また、「レールマウンテンバイク」は、メディア露出等により知名度が更に向上し、口コミによる評判も後押しして26.8%、8千人余増加した。また、「道の駅・宙ドーム神岡」では、梶田隆章氏のノーベル物理学賞受賞発表があった10月以降、研究施設・スーパーカミオカンデの観測装置レプリカ展示が話題性を呼び、入込を伸ばした。

一方、「天生県立自然公園」では、融雪災害によりアクセス国道の冬季通行止め解除が遅れ、白川郷側か

らは通行できなかつたことも相まって、64.5%、5千人の大幅減となった。また、暖冬による昨年末の降雪の遅れにより、「飛騨かわいスキー場」及び「流葉スキー場」では12月中クローズを余儀なくされ、それぞれ14.3%、2千人、12.7%、7千人の減少となり、関連して最寄りの日帰り温泉施設の入館者も減少した。

また、「古川祭」は平日に加え、両日ともあいにくの雨天となり、屋台引き揃え等も中止されたため24%、1.2万人の減であった。

なお、北陸新幹線の開業効果については、当市では直接的な効果を実感できるほどには至っていない。

宿泊客総数は106,816人で、対前年比2.8%、約3千人の増であった。

要因としては、9月にシルバーウィークがあったことにより、同月対前年比29.4%の大幅増であったこと、一部宿泊施設において海外セールスを強化し誘客に努めたことなどにより、外国人宿泊客数が対前年比50.5%、約2千人の大幅増となったことが挙げられる。

飛騨市では、今後も引き続き、国内外に向けて、飛騨市の魅力を伝える効果的な情報発信を継続して行うとともに、民間観光事業者等とも連携の下、お客様に長く滞在していただけるための仕組みづくり、仕掛けを行い、また、北陸新幹線開業効果で近隣まで来訪されているお客様の取り込み、外国人観光客が安心して滞在できる環境整備を行うことで、飛騨市への更なる誘客を促進し、観光消費額増加による地域経済の活性化に取り組んでまいります。

<本件に関する問い合わせ先>

飛騨市 企画商工観光部観光課 電話0577-73-7463（直通）

課長 渡邊 康智 ・ 課長補佐 洞口 廣之 ・ 担当 砂田 貴弘